



# 史蹟と風光の香川県

香川県鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO



「ことでん」の名で親しまれる高松琴平電気鉄道の三つの路線は、それぞれ異なる会社が明治から大正にかけて開業している。最も早く開業したのは志度線<sup>しどせん</sup>で、明治四十四年に東讃電気軌道<sup>とうざん</sup>が今橋—志度（現・琴電志度）間を開業。大正五年に四国水力電氣に合併された後、延伸し、昭和十七年、讃岐電鉄として独立した。長尾線は、明治四十五年<sup>では</sup>に高松電気軌道<sup>では</sup>が出晴—長尾間を開業。本線格である琴平線は、大正十五年に琴平電鉄<sup>りつりん</sup>が栗林公園—滝宮間を開業、翌年、高松（現・瓦町）—琴平（現・琴電琴平）間を全通させている。高松琴平電気鉄道は昭和十八年、この三社の戦時統合により誕生した。

初三郎鳥瞰図作品の本図は、昭和六年秋に香川県が発行した全県鳥瞰図であり、国鉄（現・JR）網は太い赤線で、ことでんの前身時代の鉄道網や昭和二十九年に廃止となった琴平参宮電鉄（当時・琴平急行電

※琴平急行電鉄（抜出—琴急琴平）については、昭和八年初三郎画「琴平急行沿線名勝鳥瞰図」がある。



吉田初三郎画「国立公園瀬戸内海鳥瞰図絵はがき」(昭和9<1934>年)、観光社出版部

『史蹟と風光の香川県  
[香川県鳥瞰図]』(昭和6<1931>年秋)  
香川県(香川県国立公園協会)発行  
大山市 日本ライン 蘇江の観光社 印刷



**高松琴平電気鉄道株式会社**  
Takamatsu-Kotohira Electric Railroad Co., Ltd.  
設立：昭和18年11月1日  
本社：高松市栗林町2-19-20



**こんぴら参りやお遍路、  
名所旧跡を結ぶ3路線**

県都高松市街の瓦町駅を要に、高松城の堀端を出発して金刀羅宮を目指す琴平線、四国霊場の長尾寺に至る長尾線、海辺を走る志度線の3路線、約60kmを運行している。開業以来の駅舎も数多く残っているが、平成17年2月には四国初となる電車・バス共通のICカード乗車券「IruCa」の運用を開始。これまでに26万枚を発行するなど、「うみ・まち・さと〜心でむすぶ」を掲げ、魅力あるまちづくりに取り組んでいる。平成23年には、今橋-志度(現・琴電志度)間の開業から数えて100周年を迎えた。



鉄)、昭和十六年に廃止となった琴電塩江線(当時・塩江温泉鉄道)は細い赤線で表現している。

大胆な構図は、海上航路の瀬戸内海と岡山県宇野側上空からの視点で広角に捉え、四国の表玄関高松市の栗林公園や屋島・壇ノ浦、五剣山、丸亀城跡、善通寺、満濃池などの名所・旧跡が立体絵図としてひしめいている。今はない坂出の塩田地帯には、なぜか懐かしさを覚えるほどだ。

何と言っても一番大きなバックグラウンドは、琴電琴平駅を起点とする象頭山中腹・山麓斜面に立地している金刀比羅宮(こんぴらさん)である。海上の守護神大物主命を祀るとおり「こんぴら／ふねふね／追風に帆かけて：シユラシユシユシツ」の民謡(座敷歌)もよく知られているところである。

一本宮まで七八五段、さらに奥社蔵魂神社まで五八三段の石段を登る参道が待っている。本宮前からの、讃岐平野の象徴である讃岐富士・飯野山と瀬戸内海の眺望は圧巻であり、奉納された大漁旗や絵馬は見もの。今でも漁師さんや一般参詣客の信仰のあつことが本図から想像できそうである。左端には大きな小豆島を、遙か彼方にはおなじみの富士を描画。桜と紅葉の同時表現も巧みである。

**藤本一美**

首都大学東京・専修大学非常勤講師。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」(私家版2006年)、最新刊に「展望の山50選 関東編」(東京新聞出版局)がある。